

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)

電話 66-1311
FAX 66-1314

かさおか



初代の心にかえり信仰の喜びを

深めよう 伝えよう 広げよう

- 一、持ち場立場で日々理作り
- 一、家族揃って教会参拝
- 一、一日一件にをいがけ

立教172年
12月号



青年会笠岡分会(上原繁次委員長)では、11月22日(日)、笠岡大教会において笠岡分会総会を開催し、国々所々より162人(会員104人・OB 32人・その他26人)が参加しました。

この日までに、委員が中心となり約1年前より検討を重ねてきたこともあって、それぞれが自覚と責任を持って落ち着いて取り組む事ができました。

委員が手分けして直轄教会へ巡回する傍ら、ポスター・チラシ等の製作、11月に入ってからも、看板や記念品等の準備をしました。

いよいよ総会前日となった21日、詰所よりの便も運行し、委員はもとより遠方より泊まりがけで集まった方々と、ブロックを超えて、親睦を深めることができました。

当日は、まず行われたおつとめまなびでは、おつとめ着を着用し、大教会上段にて、ブロック毎に11交代でつとめました。その後の式典では、青年会長様御告辞、大教会長様祝辞、委員長挨拶、前期委

青年会 笠岡分会 総会開催

前へ! 前へ!! そして前へ!!!

員に記念品贈呈などが行われました。

午後からは、記念講演として、金山雄大先生(淀分教会長)が演台に立たれ、ご自身の布教体験や、青年会活動の心構え、これからの活動に対して期待することを話されました。

新型インフルエンザの心配される時期の中、大きな影響を受けることもなく、この日集まった参加者の中には、信仰初代の方や、初めて総会に参加した方もおられました。ともにみかぐらうたを唱和するなど、青年会員としての意識を高めた一日となりました。

新委員会がこれから歩み出すという機運が、参加者にも高まったことでしょう。

大教会創立120周年への歩み出しの年に総会を開催できたことは、よい旬となりましたが、総会を活動の頂点とするのではなく、スタートラインとして、今後は、『前へ! 前へ!』のキャッチフレーズのもと、より多くの人に声かけをし、活動を展開していくことが期待されます。

前へ 前へ

青年会委員 平盛 尚樹

青年会笠岡分会総会に委員として参加させて頂いたのは今回で3回目です。私がこうして3期委員をつとめさせて頂けるのも、憧れであるS前前委員長、本当に兄貴と思える先輩方のお陰です。私もそうなりたい、教えて下さった様々な事をこれから若い人達に伝えたいとの思いで迎えた総会でありました。

総会当日、私は受け付け係を担当しており参加して下さる会員さんに記念品を渡していると、かすかに拍子木の音が聞こえ、どんどんその音はよく聞こえる様になり、よろづよ八首の歌声も聞こえてきました。前委員のFさん先頭に福山ブロック会員、OBでの神名流しでの総会参加です。多くの参加者の皆さん驚いてました。私もビックリしました。といいますのも、私も福山ブロックでありながら、何も知らなかったのです。

サプライズ!!といえる素晴らしい実動に本当に胸が熱くなりました。同時に、総会に向けてのブロックでの談じ合い、先輩方に頼りきっていて甘えていたんだなと痛感しました。『声かけ』伝えたい思い、伝えたい事を自分の都合や言いやすいではなく、記念講演でお話し下さった金山先

生も『声かけ』ないときっかけさえ生まれないとおっしゃられてました。声をかけるには、まずその場にいる事で、教会へ足を運び様々な行事に参加する。総会もきっかけ作りの一つの場とも思えます。きっかけがたくさんあり、つながりを持ち、そのつながりが絆を深めていく。総会での委員長挨拶にもありましたように、笠岡分会青年会という鍋にはまだまだ青年会員という具材が不足しております。私は『声かけ』をテーマに具材集め、また私自身もおいしい具材となるよう進んでいきます。笠岡につながる青年会員皆さん一緒に進みましょう。

前へ!前へ!!

修養科生の声

感謝いっぱい
の修養科

甲井分教会

為平奈央

私が修養科に志願したのは、今年8月でした。

会社を辞め転職しようとして活動していた頃、教会の会長さんから修養科を勧めていただきました。しかし私は早く転職したい気持ちがあり、長い間迷っていました。今年6月頃、会長さんから「子どもおちばがえり」に誘っていただき、子供達の引率のお手伝いをさせていただきながら、数年ぶりにおちばに帰らせていただきました。数年ぶりのおちばは、とても心が穏やかになり、もっと天理教について学んでみようと思いい、修養科に志願しました。

しかし私は、特に身上も事情もなかったもので、修養科が始まって最初の数日は、ただ漠然と天理教の教理を学ぶこと、ひのきしんをすることしか考えていなかったように思います。1ヶ月目に自分の感話をする時に、自分は3ヶ月間で、「人間関係についてと今後の自分の生き方について」考えてみようと思えました。修養科での授業や先生方の講話、朝夕のおつとめの時のお話、日々の修養科生同士の会話などを通して多くのことを学びました。修養科では、自分の心と向き合っ落ちて込むことが何度もありましたが、笠岡の修養科生の方々が話を聞いてアドバイスを下さったり、ただ会話しているだけでも自然に笑顔になれ、心が明るくなれました。修養科が始まった頃は、身上も事情もないと思っていましたが、3ヶ月間で、本当に充実した心の学びができ、3ヶ月前では考

えられない程、今は前向きな気持ちになれていま
す。修養科生活を通して多くのことに気付き、自
分なりの答えを見つけてることが出来たのも、本当
に多くの方々のおかげだと思います。これからも、
人との出会いを大切にしていき、人とつながって
いけるよう頑張りたいと思います。本当にありが
とうございました。

当たりまえの御守護を

思い知らされた修養科

簸ノ川分教会 津森 まみえ

私はこの度、信者さんの付き添いで二回目の修
養科を出させて頂きました。想像以上のご身上に、
よく修養科の心定めされたと、少しでもご守護頂
かれ、家族の方にも喜んでもらえるよう、つとめ
させて頂くとうと私の修養科も始まりました。

毎日のように、修養科でも詰所でも、先生方や
修養科生におさづけを取り次いで頂き、信者さん
が、だんだんとご守護頂かれる姿を目の当たりに
見せていただきました。「よくなられましたね」が
んばりましょうね」とたくさんの方から暖かい言
葉をかけて頂き、信者さんも体の痛みを堪え、勇
んでひのきしんにつとめられるようになりまし
た。何よりも嬉しかったのは、自分から身上の方

におさづけを取り次がれるようになった事です
た。

さて、自分の事を振り返りますと、張り切って
付き添わせて頂いていたはずが、二カ月目、燃料
切れか、はたまた誤って自分でスイッチを切って
しまったせいも、心身共に今まで経験したこと
ない苦しみが……。ゆっくり寝て下さい、と別間に
敷いてくれた布団の上に這い上がることも出来
ず、畳の上で眠れぬ夜を明かし、付き添い人が車
イスに乗せられたり、と、我な
がら情けないことになってしま
いました。が、毎日あたりまえ
のように自由に動かしてもらえ
る体をかして頂いている喜びを、
改めて分かせて頂きました。
体調を崩す度に、手を握り、「が
んばれ」とやさしく肩を撫でて
勇ませて下さった、たくさんの
方の暖かさに、付き添いとして
至らないところは多々ありまし
たが、三カ月がんばらせて頂く
ことが出来たと思います。
信者さんも、本当に不思議な
たすけをお見せ頂きました。信
者さんの世話取りを通して、私
も、親神様からお仕込み頂き、

こころの詩

▼養徳社発行『陽気』誌、「道柳」より転載

人位(七月号)

大自然生かされ育つ神の守護

地お位(九月号)

教祖様に新茶さし上げ清し朝すが

秀詠(十二月号)

道の子は元気が一番ひのきしん

東悠分教会前会長夫人 田林 美智子

▼表紙の絵

福満分教会前会長夫人 福島悦子さん

「おつとめ奉仕人の増員」を期して

用木お勤め大会開催

島根分教会

十一月一日午前十時開式。門脇元教会長の祝詞奏上から始まった。今、笠岡大教会百二十周年を控えて「今より一人以上のお勤め奉仕者の増員」を目指し、各教会が「三交代が出来るよう、お勤めの手が揃うよう」との願いを込め、島根の理を受けて部内二十一箇所の用木一八〇名が、直轄役員のの坐り勤めに続いて、ブロック毎に各下りを勤めた。



世界布教の現状について
詳しく話される上原先生

当日、笠岡大教会海

外部長 上原志郎先生に大教会の御理のもと記念講演を拝聴させて頂きました。今回で三回目を数えて一段と真剣さが漂う神殿では、お歌を唱和し、目で追うお勤めの教友・知人の姿に一喜一憂しながらのうちに十二下りを勤め終えた。

上原志郎海外部長の記念講話は、終始柔らかな感じでしたが「海外布教の全容」を、つづかに語る雄大で荘厳な雰囲気かたずに固唾を呑んで聞き入った。

それは神戸でのきっかけと成ったNPO大使との巡り合い、事前の綿密な打合せから始まり、教区・支部の支援を受けた救援物資の確保にと、



熱心に聴き入る参拝者

本筋に入って白熱した語りは一同を地球の裏側へ導いて、現地状況を想像するのに混濁は無かった。現地入りした後には、不衛生な食事や飲料水、食器などから感染し、体調をくずして、暗闇のような心境の中、お互いに「おさづけ」を取次いだ真の助け合いだった。そんな中、アメリカ伝道庁での深谷先生のお話に「教祖」を感じた時と同じように「おさづけ」を現地の人に取次ぎ回り、一心に教祖に御すがり申し上げた……そこに唯一の光明がさしてきた。更には、お勤め・十二下りは欠かさず勤め、現地の人達にその勇姿に感動して頂いた。

短い期間の探訪だったが互いが真の兄弟以上に思いやり助け合っていて、現地の人達に取次いだ「おさづけ」その時の笑顔が今でも目の前に有ると、また、救援物資も予想以上に感謝され、今後も送り続けたいとの心境は「あの笑顔」にある。おさづけの取次ぎこそ肌の色や言葉、風習が違えども、お働き下さる「親神様・教祖の姿がそこにあるのだ」と話を結んでくださいました。

野津正樹氏 書展

島根県立美術館

天場山分教会長 仙田 公男

10月29日から11月3日まで島根県立美術館市民ギャラリーで、第2回 野津正樹書展を開催されました。野津正樹氏は我が教会の役員で、幼少期から書道の才能を発揮し、長じてからは、文化功労者の「手島右卿氏」に師事してその才能を磨いてきました。現在は独立書人団島根県支部長を始め、様々な肩書きを持っています。今回は母である野津澄江さんの「手描き友禅」も一緒に展示して「書」と「友禅」の調和を演出しました。書展はいずれも大作揃いで、正面には、縦3m60cm・横8m80cmの「火・水・風」の超大作が訪れる人を圧倒していました。彼は以前からこのお道の言葉を書きたかったけどなかなか構想がまとまらず、今回やっと念願が叶ったそうです。また「愚直」(縦3m60cm横7m10cm)という作品には信仰者の心構え、「凸凹」(縦3m横7m10cm)には、元の理の夫婦の理合いを表現したそうです。その他シヨウ

ケンが歌った「ぐでんぐでん」の歌詞を軽やかなタッチで書いた大作(縦3m横12m10cm)や「夢」という字を色々な書体で表した印象深い作品、変わったものでは煤竹に李白の詩を彫ったものなどが展示してあります。



野津正樹氏と「火・水・風」の超大作

「手描き友禅」展は、四季折々の花鳥風月が描かれた着物や小物が見る人の心を和ませていましたが、中には雅楽の「青海波」や「迦陵頻急」の舞を描いた作品もありました。こういう図案があったことに驚きましたが、「源氏物語」にも雅楽の曲目は50曲位登場するそうですね。古えの雅びな人達の生活には、身近な物だったのでしよう。思い返せば、数年前彼は毎日書道展会員賞を受賞しました。「祝賀会を市内の一流ホテルでするから」と招待されて私も参列しましたが、集まった来賓の人達にビックリしました。歴代の島根県副知事さんや、県会議員に市会議員、錚々たる顔ぶれで



澄江さんの手描き友禅と 後ろは正樹氏の書

す。その時やっと「これはすごい賞なんだ」と云う事がわかりました。「オーブニングセレモニーで雅楽をやって欲しい」と頼まれたので、私が所属する雅楽愛好会「こころ音」に依頼して舞台を組んで、舞楽「迦陵頻急」を演奏しました。これは4人の子供達による童舞で、お歴々の先生方にも「島根でこんなものが見られるなんて」と感激してもらいました。ちょっとだけ

天理教の「にをいがけ」になったと思います。さて、彼の島根の師匠である河瀬断魚氏は「自由闊達その技量は多彩で振幅は広い」又「島根の書のパイオニアの一人として嘱望は大きい」更に「社会生活のいろんな面に書を浸透させた業績は大きい」と評されています。私は難しいことばかりかもしれませんが、今後の活躍を大いに期待したいと思います。今回の親子展は、書道、友禅、他多くの関係者に支えられて開催されました。特に家族、兄弟の人達は遠方から駆けつけ、ある程度日常生活を犠牲にして何日も前から準備されました。本当に大変だったと思います。本人を始め関係者の皆様をお労いすると同時に展覧会の成功をお祝い致します。

十一月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原理一慎んで申し上げます

親神様の親心溢れる御守護とお導きを頂いて 今は紅葉の秋から落葉の冬へと移り変わり 何かしらもの悲しさを感じる季節となりました。そしてそれは今月に入り 大教会理事や部内教会長等 教会に関わる人が次々と出直された事がより一層その思いを強くしているように思われます。しかしその一方で 同じく教会関係で新たにこの世に生まれ出る命もある事を思うと 人間の智恵や力の及ばない世界が有る事を思い知らされ 改めてかきものか りものの御教えの大切さ有難さを感じさせて頂きます事は 誠に有難く勿体ない極みでございます。私共は寂しさを感しながらも 出直された方の分も合わせて御恩報じの思いを深めて 日々は朝夕に御礼申し上げますと共に たすけ一条の御用の上に勤め励ませて頂いております

その中にも今日の吉日は 十一月の月次祭を執り行う日柄でございますので 只今からおつとめ奉仕者一同 喜び感謝の心も一入に 明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめさせて頂きます 御前には急激な季節の變化に戸惑いを憶えながらも 今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が相共にお歌を唱和し 同じ思いに伏し 拝む状を御覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて先月 本部長の大祭にあわせ 二十五、二十六日と別席ひのきしん団参を実施しましたところ 回廊ひのきしんに千百二十名 又初席者二十四名を含む別席者八十九名の御守護を頂きました。又どうしても都合がつかず日を変えてまで実施してくれた所もあり 大勢の人がおぢば帰りして下さった事はもちろん 笠岡に繋がる皆が一つ心になれた事を大変喜ばせて頂いております。誠に有難うございました。いよいよ 本年も残すところあと一と月 余りとなってまいりました。年頭の心定め完遂を目指し 悔いの残らないようたすけ一条の御用の上に力を出し切る所存でございます

何卒親神様には親孝心一筋にたすけ一条に励む皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上に尚も自由の御守護を賜り 生かされている喜びに満ち溢れ 御恩報じを願いたすけ一条に邁進する人が増殖して 陽気ぐらし実現に一步でも近づかせて頂きますようお導きの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

・原・稿・募・集・

内 容

①小随筆 ②教会・布教所の独自の活動の紹介 ③俳句・和歌・川柳 ④教会行事開催後の報告記事 等々

字 数

1000字前後(800字~1200字) 題名・所属教会名・氏名を明記して下さい。俳句等は1句からでも結構です。

寄稿先

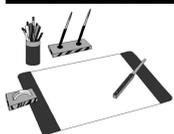
下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿下さい。

郵 便：〒714-0066 岡山県笠岡市用之江377

FAX：0865-66-1314

メール：tenkasa@yahoo.co.jp

尚、原稿はお返し致しませんので、予めご了承下さい。



大教会だより

◎第八二期修養科

自 立教172年9月1日
至 立教172年11月27日

*教養掛

三ヶ月間 中島 誠治

(鶴山分教会長)

一ヶ月目 原 公彦

(菅常分教会長)

二ヶ月目 虫明 立生

(陽備分教会長)

三ヶ月目 猪原 啓介

(門司港分教会長)

*修了者

照陽 横田 賢一

照陽 横田 あゆみ

芦常 原 裕美

西伯 手嶋 成子

簸ノ川 津森 まみえ

簸ノ川 桑原 慶子

雲東 三代 もと

甲井 為平 奈央

上父 瀬尾 八重子

立教百七十三年 教会長講習会

日時 二月二十六日 午後二時～二十七日 午前十一時半

場所 笠岡詰所

講義 ①中臺勲治先生(日本橋大教会部属 報徳分教会長)

「元氣の出る教会」

②大教会長様

「朝夕のおつとめ・年祭・霊祭における

笏板の使い方について」



先日、こんな内容の講話を聞いた。たとえば、夜寝て朝、必ず目が覚めるといふ保証はどこにも無い。翌朝、普段通りに目覚めるのも奇跡の一つだろう。

よく考えてみると私たちの身体は奇跡だらけだ。当たりまえと思っ

ている事が、実は当たり前ではない。

慣れっこになってそれに気付かずに

なっているのだ。

「大恩忘れて小恩送るような事では

ならんで」

とお教え頂いている。正に、当たりまえの姿が実は親神様の大きな恩、言い換えればご守護なのだ。私も今年、349回(12月15日現在)の奇跡の中に生きている。否、生かされている。

笠岡大教会創立120周年記念祭に向

けての実動第一年目の本年、親神様、

大教会長様の期待に添える様な奇跡

の人だったのだろうか? 頭こぶを垂れ

つつ思い起こす年の瀬である。

「世に完全という事は皆無である。99・999……%とまではいくのだが、残念ながら100%には達しない。が、唯一100%がある。人間は産まれた以上、100%必ず死ぬという事。しかし、人間として誕生、死を迎える迄、成長、生きるという事は奇跡の連続」

(し)